公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2017年
6月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
・おはらい町ツバメ探鳥会（三重）・・・・・1
・渡良瀬遊水地 Young 探鳥会
（栃木、埼玉、東京の３支部合同）・・・3
◆「参加者が入会したくなる探鳥会運営術」日本野鳥の会埼玉 勉強会の報告・・・・・5
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・7
（2017年４月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・9
・今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは名古屋で開催！
・「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？
・今月号から探鳥会スタッフ通信メール版の送信形態を移行しました
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・10
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・11
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・11

◆探鳥会訪問記

おはらい町ツバメ探鳥会（三重）

「ツバメ」は、多くの日本人にとって非常に身近な野鳥ですが、探鳥会のテーマとなることはほとんどありません。今回は、全国でも珍しいツバメの探鳥会に行って参りましたので、ご報告します。

【日　時】2017年５月14日(日)
８時～10時
【場　所】伊勢神宮内宮　鳥居前町「おはらい町」（三重県伊勢市宇治）
【参加者】11名（うち会員８名）

おはらい町は、伊勢神宮・内宮の鳥居前にある約 800m の商店街。石畳の通りにそって、日本家屋の飲食店やお土産物店などが立ち並び、伊勢神宮にお参りする観光客でにぎわう場所です。商店街の軒先には、多くのツバメの巣があり、家主のみなさんが想い想いの方法で子育てを見守っています。その様子を観察するのが今回の観察会の目的。今年で２回目とのことです。

▲はじめのあいさつ。リーダーからツバメの基本情報のお話がありました。

■探鳥会の様子

初めて参加したというご夫婦にお話をうかがったところ、財団事務局よりお届けした「探鳥会のご案内」をご覧になり、ツバメの観察会があると知り、わざわざ出向いてきたそうです。おすまいは愛知県刈谷市と遠方ですが、ツバメが大好きなので楽しみにしてきました、とのこと。ツバメの人気を実感しました。

観察の前に、リーダーの西村さんから

「最近はツバメの巣を落としてしまう人もいる中、おはらい町では街の人が巣を守っています。今日はその様子を観察しましょう。」
とのお話がありました。そして、模造紙に描かれた「ツバメの一年」のイラストと羊毛フェルトの実物大ぬいぐるみを使った、ツバメの生活史などの説明がありました。
　いよいよ観察開始です。観光客もまばらな午前８時過ぎの商店街を歩きはじめると、すぐに頭上を飛び交うツバメを発見。参加者から
「あっ、いたいた。」
などの声が上がり、気分が高まりました。看板の上にちょこんととまるツバメを間近に観察し、その色合いの美しさやしぐさのかわいらしさをじっくり観察しました。

▲観察の様子。親鳥に配慮しながら、軒先の巣を静かに観察。

　次に、軒先をのぞきながらツバメの巣を探し、親鳥が留守中の巣をこっそり観察させてもらいます。巣の周りには、各家で工夫をこらした「フン受け」が設置されていました。段ボールやベニヤ板で作られたもののほか、編笠やすだれなど、街の雰囲気に溶け込むのも多くみられました。また、糸やタオルなどを巣の周りに設置して、カラス避けをしている家もありました。
　なかには、建物の中に巣がある店もありました。そのお店では、夜でもツバメが出入りできるよう雨戸に穴をあけているそうです。また、伊勢名物「赤福」本店の入口には、「ツバメの子育てにご協力ください」の看板が。見上げると、店内のしめ縄の上に巣がありました。ツバメが頻繁に出入りしていますが、お客さんもお店の人も、それを当たり前のこととしてとらえているようでした。
　観察中に、ツバメの巣に近づくカラスの姿を発見しました。すると、すぐにツバメが 10 羽ほど集まってきて、カラスの周りを飛び始めました。カラスは、ツバメの集団を嫌がるように少しずつ巣から離れていき、ついには、飛び去って行きました。その一部始終を参加者みなで観察することができました。普段じっくりみることのないツバメたちの連係プレーに
「チーム・ツバメだね」
などとの声があがりました。
　開店準備をしているお店の人とお話をする場面もありました。ツバメが来ることをうれしく思っていることや、お客様にもご理解いただけるようお願いしていることなど、ツバメへの想いを直に聞く場面もありました。また、観光客の方が
「何をしているのですか？」
などと声をかけてこられることもあり、一緒にツバメを観察する場面もありました。
　１時間程ツバメを観察した後は、商店街と並行して流れる五十鈴川でバードウォッチングです。美しい声でさえずるイソヒヨドリや、イソシギ、セグロセキレイなどの水辺の鳥を観察しました。10 時前には集合場所に戻り、鳥あわせ。全部で 16 種の野鳥を観察したことを確認し、解散となりました。

▲すだれや編笠で作られたツバメの巣のフン受け。街の雰囲気にもぴったり。

■感想

ツバメのしぐさや行動のおもしろさはもちろん、それぞれのお店で工夫を凝らしたフン避けやカラス避けなど観察対象に事欠きませんでした。また、ツバメは野鳥観察に慣れない参加者でも容易に観察でき、みなで同じ話題で会話が盛り上がります。さらに、フィールドは街中ですので特別な装備も必要なく、気軽に参加できるのも魅力だと思いました。

また、お店の方にお話を聞くことで、ツバメと関わる住民のみなさんの想いも知ることができ、ツバメと人のつながりについて理解を深めることもできました。

野鳥の繁殖の様子の観察ですので、子育てを邪魔しないよう配慮しながらの観察とはなりますが、身近な野鳥をじっくり観察することで、意外な生態を知ることが出来たり、人と野鳥のつながりを感じることが出来たりと、多くの発見がある観察会でした。

▲赤福本店内のしめ縄の上にあるツバメの巣。

（普及室／江面康子）

渡良瀬遊水地 Young 探鳥会（栃木、埼玉、東京の３支部合同）

渡良瀬湧水地にて栃木、埼玉、東京の三支部合同の Young 探鳥会が開催されましたので、ご報告いたします。

【日程】2017 年 5 月 27 日(土)
９時 30 分～13 時 30 分
【天気】雨のち曇りのち晴れ
【場所】渡良瀬遊水地の北西側（群馬県邑楽郡板倉町、栃木県栃木市）
【参加者】約 80 名
【リーダー】約 15 名

■探鳥会の概要

今回の開催地の渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城の 4 県にまたがる国内最大の遊水地で、本州最大のヨシ原があります。その渡良瀬遊水地の北西側で探鳥会を行いました。

谷中湖北西にある思い出橋を出発地点に、湖を右手に見ながら北側のヨシ原まで移動し、最後は出発地点のそばの芝生スペースに戻る 2 時間ほどの観察コースでした。移動途中は特にグループに分かれるという事はなく探鳥しました。

今回は Young 探鳥会ということで、「初心者の方からベテランの方まで、心が若い人」を合言葉に 80 名以上の多くの方が参加しました。

■探鳥会の様子

当日の朝は雨が強まったり弱まったりで少し肌寒いくらいの天候でした。朝９時 30 分に思い出橋駐車場にて受付をし、今回協賛をいただいているニコン製双眼鏡「モナーク」の貸出も行いました。こちらは大変人気で 27 台全てが貸出となりました。受付の最中雨が強くなり探鳥会が開催されるのか心配されましたが、開会の挨拶の間に雨は止みました。初心者の方は双眼鏡の使い方の説明を受けてから探鳥を開始しました。

▲探鳥会の開会の様子

開始早々近くの木にオオヨシキリが止まっ

てさえずっていたので、リーダーの方から
「口の中が赤いのでぜひ確認してみてください。」
と案内がありました。長時間同じ場所でさえずっていたので、参加者は双眼鏡と望遠鏡でじっくりとオオヨシキリの口の中の赤色を観察することができました。

参加者は、各自の双眼鏡で鳥を探したり、参加者同士で声を掛け合ったり、それぞれが思い思いに楽しんでいる雰囲気で会が進みました。途中で開けた草地や道路のど真ん中にヒバリやホオジロが出て来ていて、初心者の方の双眼鏡の練習にもなっていました。最後は青々としたヨシ原でコヨシキリ、オオセッカを探す楽しさも味わえ、初心者からベテランまで楽しみやすい探鳥会であったと思います。

お昼は芝生広場に戻って、それぞれ好きな場所でお弁当を広げてご飯を食べ、ゆっくり交流もできました。

昼食後、埼玉の廣田さんの進行で鳥合わせをし、27 種が見られたことを確認しました。

▲観察の様子

観察した鳥は、キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、カッコウ、コチドリ、コアジサシ、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオセッカ、オオヨシキリ、コヨシキリ、スズメ、セッカ、ムクドリ、カワラヒワ、ホオジロの計 27 種でした。

■参加者の声

親子で参加のお子さん（10 才ぐらいの女の子）：ヨシ原で目当てのコヨシキリもオオセッカも見ることができ、楽しかった。

20 代女性：四国から首都圏での就職活動のためホテルに宿泊中です。なかなか関東に鳥を見に出てくる機会がないので今回参加でき、また大勢での探鳥会という貴重な体験ができたことが良かったです。

▲昼食の様子

■まとめ

私は Young 探鳥会に今回初めて参加しました。最初は他の探鳥会ではなかなか見られない若い層の参加者の多さ、全体の参加人数の多さに圧倒されました。リーダーも若手が多く、随所に Young 探鳥会ならではの工夫を感じることができました。例えば参加者が大勢になる場合を想定して各リーダーが拡声器を使用していたことや、若い層の参加者の方にも楽しんでもらおうと鳥の説明の中に冗談や鳥の面白い話を交えていたこと、初心者や一人で参加している方に楽しんでもらうため、積極的に話しかけることや望遠鏡を覗いてもらうよう促すことなどを徹底していました。このような各リーダーの努力が参加者にも伝わり、始終アットホームな雰囲気の探鳥会になっていました。

またお昼を青空の下で一緒に食べることに大きく時間を割いており、参加者同士に交流してもらうことを重視している印象でした。今回は時間の関係でお茶会には参加できなかったのですが、次回は是非参加してみたいです。

（普及室／染谷美恵）

◆「参加者が入会したくなる探鳥会運営術」日本野鳥の会埼玉 勉強会の報告

2017年3月25日（土）に、日本野鳥の会埼玉の幹事向け勉強会がありました。テーマは「参加者が入会したくなる探鳥会運営術」。講師は、神奈川支部の樋口公平さんです。樋口さんの本職である企業の営業の考え方からヒントを得た、探鳥会参加者に入会のお誘いをするテクニックをまとめたお話です。

この会は、リーダーズフォーラム東日本で樋口さんのお話を聞いた埼玉の幹事の方が、ぜひ支部のみんなで共有したいという事で実現しました。ここでは、概略しかお伝えできませんが、講義の録画がありますので、ご覧になりたいという方は、普及室（tancho-staff@wbsj.org） までご連絡下さい。後ほどＤＶＤをお送りします。

■内容

（１）はじめに

「会員増」は多くの支部の共通の課題。一般向け探鳥会をしても、なかなか入会してくれない、という悩みを持つ支部は多い。限られた時間と労力で、効率的に入会者を増やすにはどうしたらよいか、と考えたときに、企業の営業の方法が参考になることを発見しました。

（２）マインドフロー

ビジネスでは、まず商品のファンを作ることが大切で、ファンになるまでのお客様の心の流れ（マインドフロー）を大切にします（※）。それは、認知→興味→行動→比較→購買→利用→愛情　というステップで、順番を無視しないことが大切。

（３）マインドフローを探鳥会に置き換えてみると

ここでは、ゴールは、お試し入会と考え、ゴールに至るまでのマインドフローを探鳥会の場面に当てはめて説明します。

①認知：探鳥会のはじめに、お試し入会制度ついて参加者に知らせる。ここでは「認知」してもらう程度でよいので、ポイントを絞って簡単に説明をしましょう。

②興味：「1000円で入会できます」「会報が届きます」「探鳥会に参加できます」など、魅力的な情報を伝えて、興味を引きます。

③行動：すでに参加者は探鳥会に来ているので、この段階はクリアしていると考えます。

④比較：もっとも重要なステージ。参加者は、競合しているものと比べている段階。「入会」と競合するのは「入会しないでバードウォッチングをすること」。一人で観察することと比べて、入会することのメリットを参加者にアピールします。勧誘しようと気負う必要はなく、支部の価値を伝えようと思えばよいでしょう。なお、検討時間は長い方がよいので、お試し入会制度については、探鳥会の始めに簡単に伝えておくことが重要です。

⑤購買：探鳥会の最終段階。競合との比較ができ、入会への気持ちが高まっている状態。班ごとに観察をしてきたのであれば、班ごとに鳥あわせや入会案内をするとよいでしょう。仲良くなったリーダーから誘われれば入会しやすくなりますし、同じ班の参加者が入会すると、つられて入会する人もいます。手続きはできるだけ簡単にして、わずらわしさを減らすことが大切です。

▲講義をする樋口さん（日本野鳥の会埼玉事務所にて）

（４）最大の武器

参加者との会話の機会を持ち、良い雰囲気を作りましょう。参加者はそれぞれ野鳥への想いが異なるので、会話の中から個々のニーズを把握すれば、競合と比較してのメリットも伝え易くなります。例えば、憧れの野鳥がある方には、その鳥が見られそうな探鳥会を紹介したり、普段野鳥を見ていて疑問に思っていることがあれば、それに答えたりなど。初心者にマニアックな話題を続けたり、専門用語を連発したりすると、楽しい雰囲気が損なわれてしまうので注意しましょう。

（5）最後に

もちろんその日の運もあるので、継続することが大切です。また、個人のスキルとしてだけではなく、支部全体の仕組みとして取り入れることで、成功率も高まります。

■感想

参加者の心の動きを考えて、こちらの伝えたい事を伝える、という考え方に、驚きと納得の連続でした。特に、「入会の競合相手は、他の団体ではなく、ひとりで鳥を見ることである」というお話が印象的でした。会員減に悩む多くの支部の皆さんにぜひ参考にしていただきたいお話だと思いました。

（普及室／江面康子）

※参考文献：「マーケティング戦略実行チェック 99」佐藤義典著／日本能率協会マネジメントセンター

◆探鳥会保険集計結果（2017 年 4 月分）

4 月は 64 支部からご報告をいただき、計 269 回の探鳥会が開催され、のべ 7,094 人が参加されました。

表 1. 4 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 5 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	37	14	2	53
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	2	31	6	4	41
滝川支部	1	16	2	2	20
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	135	71	10	216
小樽支部	2	9	2	2	13
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	20	7	3	30
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	3	24	19	9	52
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	33	4	3	40
秋田県支部	3	32	6	3	41
山形県支部	3	26	3	5	34
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	−	−	−	−	−
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	54	21	6	81
ふくしま	2	46	0	4	50
郡山支部	2	31	1	6	38
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	2	0	12	14
会津支部	1	7	1	2	10
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	24	2	1	27
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	90	33	12	135
栃木	−	−	−	−	−
群馬	2	24	9	5	38
吾妻	2	50	4	4	58
埼玉	9	233	87	58	378
千葉県	10	171	49	43	263
東京	13	610	17	67	694
奥多摩支部	11	220	60	48	328
神奈川支部	11	168	28	35	231
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	4	75	26	6	107
石川	2	34	12	6	52
福井県	3	28	0	3	31
長野支部	5	123	18	10	151
軽井沢支部	1	17	6	1	24
諏訪支部	2	16	24	4	44
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	69	2	4	75
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	11	3	2	16
南富士支部	2	66	13	3	82
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	3	36	4	7	47
遠江	3	85	16	12	113
愛知県支部	15	227	158	39	424
岐阜	-	-	-	-	-
三重	5	52	23	8	83
奈良支部	4	116	15	8	139
和歌山県支部	1	23	11	5	39
滋賀	4	32	14	8	54
京都支部	11	199	51	24	274
大阪支部	21	433	102	85	620
ひょうご	12	188	113	34	335
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	36	14	3	53
島根県支部	2	15	0	2	17
岡山県支部	5	110	46	14	170
広島県支部	4	93	48	4	145
山口県支部	-	-	-	-	-
香川県支部	4	120	39	5	164
徳島県支部	5	73	17	5	95
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	6	70	34	11	115
北九州支部	3	42	2	3	47
福岡支部	8	132	25	16	173
筑豊支部	6	56	6	6	68
筑後支部	6	58	12	6	76
佐賀県支部	3	52	30	4	86
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	4	42	42	7	91
大分県支部	1	22	12	2	36
宮崎県支部	4	37	19	4	60
鹿児島	3	62	30	11	103
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	269	4943	1433	718	7094

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは名古屋で開催！■

今年度で４年目となる「探鳥会リーダーズフォーラム」は、右の日程、会場で開催予定です。詳細な募集要項は、８月にはご案内できる予定です。

【日　時】2018 年１月 20 日（土）～21 日（日）
【会　場】邦和セミナーハウス（愛知県名古屋市）http://www.howaseminarplaza.com/
【定　員】40 名
【参加費】10,000～13,000 円程度

■「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？■

「探鳥会リーダーズフォーラム」で分科会を企画、実施してくださる方を募集します！探鳥会にまつわることで全国のリーダーと情報共有したいこと、話しあってみたいことがある方はご連絡ください。
※分科会の開催については、内容や応募数を勘案し事務局で調整させていただきますのでご了承ください。

□応募要領□
＜締め切り＞　2017 年７月末日まで
＜所要時間＞　分科会の所要時間は、１ 時間 30 分の枠（２日目）と２時間の枠（１日目）があります。どちらかをお知らせください。
＜役　　割＞　事例紹介、進行など。ただし、分科会の企画運営、進行などは必要に応じて事務局でサポートさせていただきます。お気軽にご相談ください。
＜お申込み＞　企画する分科会について、以下の項目を記入していただき、７月 31 日までにメールで、tancho-staff@wbsj.org までお送りください。

- 分科会タイトル（内容がよくわかるもの）
- 分科会の内容（200 字程度）
- ご担当者（支部名、お名前、電話番号、メールアドレス）

□お問い合わせ、お申込み□
（公財）日本野鳥の会　普及室
担当：堀本、井上、箱田
e-mail　tancho-staff@wbsj.org
電話　　03-5436-2622

■今月号から探鳥会スタッフ通信メール版の送信形態を移行しました■

先月５月号まで探鳥会スタッフ通信メール版は、Outlook で BCC を使って送信していましたが、今月号から、よりセキュリティの整った財団の支援者管理システムを使って行っています。
それに伴い、以下について、ご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

（１）当会で不定期に送っているイベントの案内などが届く場合があります。
→届いたイベントの案内などが、今後、不要の場合は、ダイレクトメールの末尾にある手続きに従い、配信を停止することができます。なおイベントの案内を停止した場合も探鳥会スタッフ通信は配信されます。

（２）探鳥会スタッフ通信が２つのアドレスに配信される場合があります。
→今月号が２つのアドレスに届いた方で、今後、配信されるアドレスを１つにしたい場合は、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

その他、「これまで届いていたのに、届かなくなった」など何らかの不具合がありましたら、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信 6 月号の電子メール版の購読者数は、880 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表 2. 探鳥会スタッフ通信 6 月号電子メール版の購読者数（2017 年 6 月 12 日現在）

支部	購読者数
小清水	1
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	72
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	4
秋田県支部	3
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	37
千葉県	21
東京	61
奥多摩支部	48
神奈川支部	21
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29

支部	購読者数
福井県	10
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	6
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	11
愛知県支部	44
岐阜	5
三重	19
奈良支部	2
和歌山県支部	5
滋賀	19
京都支部	30
大阪支部	26
ひょうご	15
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	12
岡山県支部	27
広島県支部	8
山口県支部	3
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	6
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	880

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

これから本格的に梅雨の季節ですね。子育て中の鳥たちがついつい心配になる季節でもあります。働き始めてから２か月半が経って、私も電話で野鳥の巣やヒナについてのご質問をお受けする機会が増えました。野生の生物どうしの関係や野鳥と人との関係、目の前の野鳥を何とか助けたいと思う気持ち…などなど、いろいろなことを考えながらお答えしています。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第51号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017年6月15日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org